

<2月農事メモ>

家庭菜園、市民農園利用者向きに野菜栽培情報を毎月発信しています。

2月4日は立春、2月19日は雨水（空から降るものが雪から雨に変わり、氷が溶け始め水になる頃）で、昔から農耕の準備を始める目安とされてきました。日ごとに昼間の時間が長くなり陽射しも眩しく感じ始め、今年も畑の準備をする季節となりました。

今月は、1、作物を植えつける前に植える場所を整える作業、畝づくりについて、2、植え付け前に入れる肥料について 3、今月の作業について、紹介します。

1、整地・畝(うね)づくり

<畝を作る理由>

畝をつくる最もおおきな理由は、野菜を育てる場所と通路を区別するためです。畝と通路はセット。両者があることによって次のような効果が生まれます。

- ①管理作業のスペースを確保する
- ②水はけと通気性がよくなる
- ③野菜の種類や品種を分ける
- ④日当たりや風通しをよくする

<畝の高さ>

決め手は、栽培する野菜と畑の水はけの関係です。多くの野菜は、水はけのよい土を好みます。水はけのよい所は平畝(高さ5～10cm)、悪い所は高畝(20～30cm)にします。サツマイモのように多湿を嫌う野菜は高畝に、一方多湿を好むサトイモは平畝に植え付け、あとで土寄せします。

<畝の方向>

畑の場所や形を考慮したうえで、土地の傾斜と日の当たり具合を確認します。基本的に、畝は等高線に沿って作ります。段々畑です。傾斜を無視すると、土や水、肥料が低い方に流れてしまいます。また、太陽光がすべての野菜にまんべんなく当たるように南北方向に畝を立てるのが理想です。ただ、畝の方向が思いどおりにならない場合があります。そのときは、背丈が大きくなる野菜を北側に、小さな野菜を南側に配置するなどの工夫をします。

<畝の幅>

畝幅は育てる野菜によって異なります。 トマトやキュウリなど、2列植えにして合掌式に支柱を立てる場合は、畝幅100～120cm、イモ類と長ネギは70～100cm、それ以外の野菜は60～70cmが目安です。カボチャやスイカなどは畝幅以上つるが広がるので、畝幅プラス1～2m程度のスペースを用意します。

<整地>

種を蒔く場所をレーキやまっすぐな板などを引っ張って水平にならします。水平になっていないと雨が降った時に水分や養分が低い方へ流れたり、成長が不揃いになります。

2、植え付け前に施す肥料について

作物を植える前、整地作業のときに施す肥料を元肥（もとごえ）と言います。そして、生育の途中で作物の様子を見ながら施す肥料を追肥（ついひ、おいごえ）と言います。元肥には土壌改良のために用いる場合と栄養成分補給のために用いる場合があります。

<土壌改良>

土の通気性や保水性をよくするために有機物や堆肥を投入します。堆肥には落ち葉を発酵させた腐葉土、木の皮を発酵させたバーク堆肥、家畜の糞にわらなどの敷料を混ぜて発酵させたもの（牛糞堆肥、豚糞堆肥、馬糞堆肥など）があります。植え付ける2週間程度前までに投入し、よく土になじませておきます。未熟なものを投入するとガスや熱が発生することがあるので植え付ける直前は避けます。

<栄養成分補給>

栄養成分を補給するために肥料を用いる場合は、育てる作物に応じて施す量や位置、方法を考えますが、よく使われる2つの方法を紹介します。

a) 全層施肥

一定の広さにたくさんの株を作付けするコマツナやホウレンソウなどの葉物野菜や根をまっすぐに伸ばしたいニンジンやダイコンなどの根菜類に向いています。畑全体を平らにならし肥料を均一にまいてから、深さ15cmくらいまで鍬などで耕して肥料を鋤き込んでいきます。肥料が作土層全体に広がっているので、野菜が必要とする養分を素早く吸収できる利点があります。

b) 溝施肥

トマト、キュウリ、ナスなど実を食べる果菜類や栽培期間が長い葉物野菜（キャベツ、ハクサイ、ブロッコリーなど）に向いています。鍬などで深さ20cmほどの溝を掘り、そこに肥料を施して土を戻し、畝立てをして、苗を植え付けます。根の下だけに施すため全層施肥に比べて施肥量を20～30%減らすことができます。

3、今月の作業 —— タマネギ追肥とエンドウ支柱立て

<タマネギの追肥>

なるべく2月～3月上旬までに行ないます。追肥が遅れると病気の発生の原因となり、保存性が悪くなります。追肥の方法は溝を作ってそこに肥料を入れ土をかぶせます。または土の表面全体に肥料をまいて、小さなクマデなどを使って土と肥料を混ぜ込むようにほぐし、肥料が1か所に偏らないようにします。

<エンドウ支柱立て>

少し暖かくなると勢いよく生長し、つるを伸ばし始めます。支柱を立て、つるが絡みつく場所を用意します。草丈が15～20cmになる前に行います。エンドウの仲間は葉

の先の細い巻きヒゲが何かにつかまるようにして巻きつきます。したがって、ワラや網、枝のある笹竹などが適しています。竹の枝などを地面に挿して使うか、ワラの場合支柱に縄を張りワラの株元を下にして細い方を1回縄に巻きつけてしばりぶら下げます。周辺で手に入る素材で工夫して下さい。

※今回の農事メモは、家の光協会発行『やさしい畑』、『家庭菜園大百科』およびNHK出版発行『野菜の時間』から一部抜粋して紹介しています。

▼登録内容変更はこちらから▼

<https://mb.wbi.jp/mb/mbr/hp/up.php?otsu16052>

▼配信停止手続きはこちらから▼

<https://mb.wbi.jp/mb/msp/?otsu16052>

大津市役所 農林水産課
(ファミリー農園運営委員会事務局)
Tel 077-528-2757
